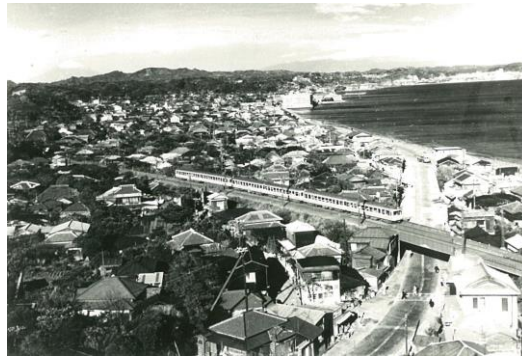


# 緒明山 OAKIYAMA-TSUSHIN 通信14



矢ノ津坂から見た京急線及び馬堀海岸（昭和30年代）

発行日  
令和6年（2024年）6月1日

発行者  
横須賀市立中央図書館郷土資料室  
住所 神奈川県横須賀市上町1-61  
電話 046-822-2077

本誌は印刷発行していません。次の図書館あるいは市史編さん事業のホームページからダウンロードしてください。カラーでご覧いただけます。  
<https://www.yokosuka-lib.jp/contents/archive/>  
<https://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/8150/shishi/shishi1-top.html>

## 《 展示会プレーバック 》

### 企画展示「鉄道と横須賀」を振り返る

郷土資料室 谷合 伸介

令和6年（2024）は、明治22年（1889）の横須賀駅開業から135年、明治37年（1904）の田浦駅開業から120年、さらに昭和19年（1944）の衣笠駅及び久里浜駅の開業から80年にあたる。今年は、横須賀と鉄道との歩みを振り返るうえで節目の年となることから、中央図書館では、本年2月10日（土）から3月14日（木）の間、企画展示「鉄道と横須賀」を開催した。展示を通じ、市内を走る横須賀線及び京浜急行電鉄線の歴史を辿り、鉄道が地域にもたらした影響などを紹介するとともに、展示終了後には、来館者から好評を得たスライドショーを編集し、横須賀市公式YouTubeチャンネルにて「駅と鉄道の風景」と題し、横須賀線編と京急線編の2本の動画公開を行った。

本稿では、展示の核となった資料を中心に企画展示を振り返りつつ、YouTube動画の公開に至る経緯についても触れておきたい。なお、本稿の資料の紹介順は、展示時の資料陳列順とは異なることを予めお断りしておく。

#### 1. 横須賀線開通と鉄道利用

明治22年、横須賀線は、軍の要請により建設が進められ、大船駅と横須賀駅とを結ぶ単線鉄道として開業した。開業以前、東京・横浜方面への輸送は主に船に頼っていたが、陸路の鉄道開通により三浦

半島は急激に近代化を遂げることとなる。明治37年、海軍工廠造兵部工場の発展により、田浦駅が開業すると、田浦－横須賀間の通勤利用が始まった。その後、太平洋戦争が開始されると、軍部の要請により東京湾入口の久里浜への横須賀線延伸が進められ、昭和19年、横須賀駅－久里浜駅間が開通し、途中駅として衣笠駅が開業した。

資料A 鉄道唱歌 訂正 明治44年(1911)  
国立国会図書館デジタルコレクション

鉄道唱歌は、明治期の唱歌集で、全国の鉄道の駅名と沿線の風物を七五調四行で一節ずつ歌いこんだもの。第1集は、東海道編となっており、横須賀も歌詞に登場する。明治33年（1900）の当初の鉄道唱歌では「汽車より逗子をながめつつはや横須賀に着きにけり見よドックに集まりしわが軍艦の壮大を」とされたが、その後、明治44

資料A



年には「汽車より逗子をながめつつはや横須賀に着きにけり見よ軍港の雄大をげに東海のしづめなり」となり、後半部分の歌詞が訂正されている。鉄道唱歌は、地理教育や交通知識の普及に役立つとされ、大いに歓迎された。

資料 B 横須賀明細一覧図 一部抜粋・加筆  
明治 28 年 (1895) 当館蔵

横須賀明細一覧図は、明治の頃、横須賀造船所を見物に来た人々に販売された絵図。明治 28 年の右図では、左下に明治 22 年 (1889) に開業した蒸気機関車の横須賀線が描かれ、横須賀駅は「ステーション」と記されている。一方、それまで横浜方面への移動手段となっていた汽船も、鉄道開業後、直ちに無くなったわけではなく、定期航路を継続した事業者は存続した。

資料 B



資料 C 絵葉書 (横須賀開港五十年記念)  
大正 4 年 (1915) 当館蔵

横須賀開港五十年を記念し、発行された絵葉書。最下部に「東洋一の軍港 横須賀軍港の壮観」と記されていることから、左下の蒸気機関車の写真は、一見すると横須賀一田浦間の沿岸部を走行する横須賀線のように見える。一方で、地形などから、横須賀港ではなく東海道線の海岸部で撮影された可能性も指摘されている。なお、横須賀線内の蒸気機関車を写した資料は非常に少ない。

資料 C



資料 D 絵葉書 (横須賀停車場)  
大正 14 年 (1925) 当館蔵

横須賀停車場は、横須賀線の開通とともに明治 22 年に開業した。この駅舎は、大正 3 年 (1914) に移転・新築された 2 代目で、現在と同様の建物。軍港に近接する横須賀停車場とその周辺施設を一括して写した全景写真は少なく、貴重な資料といえる。駅舎の右側には機関車の向きを変える転車台が見える等、終着駅ならではの光景も確認できる。

資料 D



資料 E 絵葉書 (田浦停車場)  
大正時代カ 当館蔵

田浦停車場は、明治 37 年に開業し、当初駅舎は海側の道路に面していた。2 代目の駅舎と跨線橋が出来たのは大正 5 年 (1916) であることから、右の絵葉書は、少なくともそれ以降のものである。また、この絵葉書の写真は裏焼きされたもので、実際には跨線橋は逗子側にあったと考えられている。

資料 E



## 2. 湘南電気鉄道の開通と横須賀

昭和5年(1930)、金沢八景―湘南逗子間とともに黄金町―浦賀間を結ぶ湘南電気鉄道(以下、湘南電鉄と略す)が開通した。翌年には日ノ出町での接続がなされ、横浜―浦賀間の直通運転が開始された。地元の鉄道開通への期待は高く、浦賀町では開業に合わせ、盛大な祝賀会が行われた。

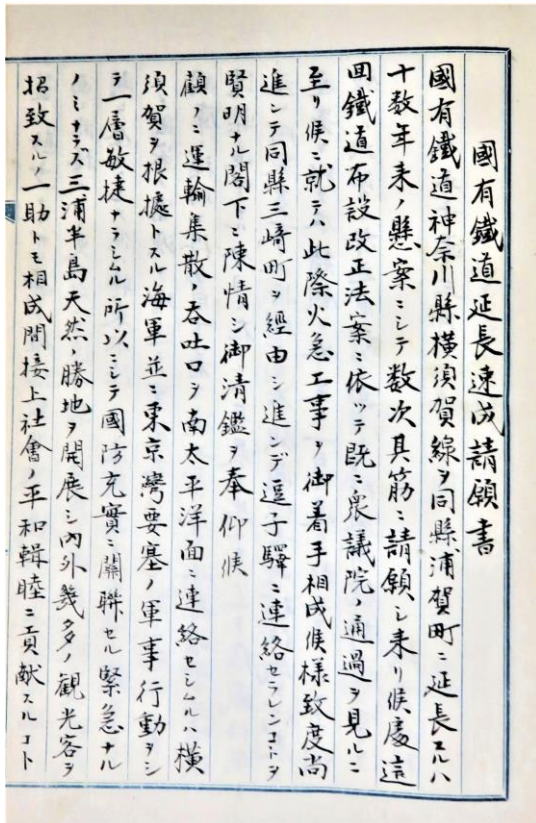
湘南電鉄の開通により、大津海岸や馬堀海岸などでは、京浜地区から海水浴に訪れる避暑客であふれ、大変賑わった。また、大津地区では、宅地化も急速に進展し、町の様子は変わっていった。その後、湘南電鉄は、戦時中の交通事業の合併や統合もあり、京浜電気鉄道及び東京急行電鉄へと社名を変えていきながら、終戦後の昭和23年(1948)、現在の京浜急行電鉄が発足するに至った。

### 資料 F 国有鉄道延長速成請願書

大正10年(1921) 横須賀市蔵

浦賀町では、交通輸送力の欠乏から、明治末頃より度々横須賀線を浦賀港まで延伸するように請願していた。本資料は、大正10年3月に浦賀町長や多くの地元の議員らにより出された請願書。結果的に横須賀線の浦賀延伸は叶わなかったが、湘南電鉄

資料 F



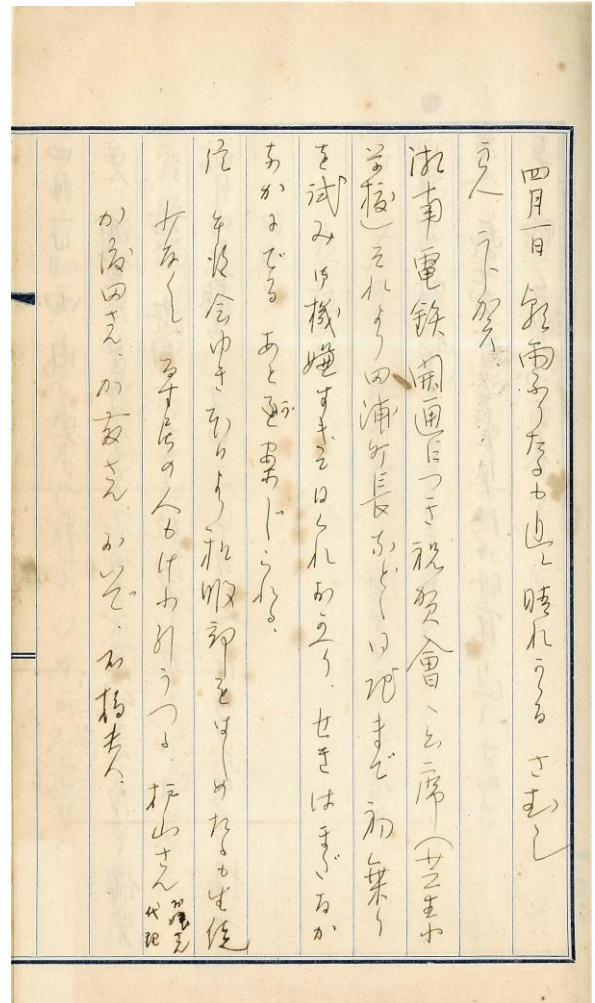
による鉄道開通が昭和5年に実現することとなり、長年の地元の悲願が達せられた。

### 資料 G 石渡信日記(鉄道開通を祝う浦賀町)

昭和5年4月1日 当館蔵

本資料は、当時の浦賀町長石渡秀吉の妻、信の日記。湘南電鉄開通日の昭和5年4月1日条には、浦賀町長の秀吉が芝生小学校で開催された祝賀会に出席し、その後、田浦町長らとともに田浦まで初乗りし、「御機嫌」であった様子が記されている。この日記の右側には同日の『神奈川東日』(東京日日新聞地方版)の記事がスクラップで貼付されている。当時の新聞記事などによれば、浦賀町では、鉄道開業を盛大に祝い、花火の打ち上げが行われた他、駅前には紅白の大アーチが設けられ、夜はイルミネーションが行われた。町民も、町内を提灯行列で練り歩き、鉄道の開通を祝った。また、田浦町でも、当日は町内に国旗が掲揚され、芸者が総出で街を練り歩くなど祝賀ムードに包まれたとされる。

資料 G



資料 H 絵葉書 (湘南電鉄横須賀中央駅)  
昭和8年 (1933) 当館蔵

資料 I 絵葉書 (湘南電鉄開業頃の中心市街地)  
昭和5年 当館蔵

資料 H は、平坂通りの湘南電鉄ガードをとらえた絵葉書。ガードの奥には乗合自動車 (バス) が走っているのが見える。昭和5年の開業から今日まで横須賀中央駅の駅名は変わっていない。資料 I は、湘南電鉄開業頃、龍本寺山上から横須賀中心市街地を眺めた絵葉書。大滝町や若松町付近は、関東大震災で大きな被害を受けたが、震災後の復興計画により、カーブしていた通りの道筋は真っ直ぐに改められ、幅約 22m の大通りに生まれ変わった。

資料 J 模型 (湘南電鉄デ1型復元記念)  
昭和53年 (1978) 個人蔵

湘南電鉄が昭和5年の開業に備えて製造した車両。戦前の関東私鉄のなかでも名車の1つに数えられる。昭和53年 (1978) を最後に京急線では姿を消した。

資料 K 湘南電気鉄道海水浴回数乗車券  
昭和9年 (1934) 当館蔵

資料 L 絵葉書 (馬堀海水浴場)  
昭和7年 (1932) 当館蔵

昭和5年に鉄道が開業すると、湘南電鉄は馬堀海岸に大きな海の家を設けた。また、近接する砂地に海水浴客用の娯楽施設としてベビーゴルフ場なども設置した。遠浅で美しい砂浜の馬堀海岸には京浜方面から湘南電鉄を利用した海水浴客が押し寄せ、多い日には、隣の大津海岸と合わせ1日4万人もの人出にのぼった。

資料 K



資料 L



資料 H



資料 I



資料 J



### 3. 駅と乗合自動車

明治22年に横須賀線、昭和5年に湘南電鉄が開通すると、横須賀と遠隔地とを結ぶ交通網や輸送網は大きく発展し、横須賀の近代化に大きく寄与するところとなった。一方、市中における交通インフラは、明治期には人力車や乗合馬車が活躍したが、昭和期になると、乗合自動車(バス)にとって代わられるようになる。特に、横須賀駅は、三浦半島各所を結ぶ乗合自動車のターミナルとなっていた。

#### 資料 M 交通機関配置図(会社別) 一部抜粋 昭和9年 当館蔵

昭和9年頃の横須賀における鉄道と乗合自動車の交通網を表した図面。これによれば、特に横須賀駅は中心的なターミナル駅となっており、乗合自動車各社の路線はここから半島各所に延びていたことがわかる。主に、半島の東側は横須賀自動車、西側は半島一周自動車・三浦自動車・臨海自動車の三社が担う体制となっていた。本資料は、「横須賀都

資料 M



市計画区域図」の上に重ねられた2枚綴りの形態。

#### 資料 N 絵葉書(横須賀停車場) 大正時代カ 当館蔵

大正時代中後期とみられる絵葉書で、停車場の前に人力車と乗合自動車が待機していた様子が見てとれる。右側に写る看板には、「乗合」あるいは「貸」の字の下に「自動車」と書かれていることが確認できる。また、その行き先は「浦賀行」あるいは「田戸ゆき」と記されている。

資料 N



#### 4. 写真にみる戦後の横須賀駅

##### 資料 O 横須賀駅外観

昭和 20 年 (1945) 米国国立公文書館蔵

##### 資料 P 横須賀駅構内

昭和 20 年 米国国立公文書館蔵

資料 O と P は、終戦後、横須賀に上陸したアメリカ軍によって撮影された昭和 20 年の写真。戦後直後のこうした写真は、地域の資料にはほぼ残っておらず、大変貴重な資料といえる。戦争の被害が比較的少なかった横須賀線は、戦時中も戦後も走り続けた。この 2 枚の写真からは、終戦後も多くの人々が横須賀駅を利用していただろうことが窺える。また、この頃は、戦地からの復員兵が横須賀駅から列車に乗り郷里に帰っていく姿もみられた。

##### 資料 O



##### 資料 P



##### 資料 Q 国鉄横須賀駅 昭和 26 年 (1951) 頃

(資料 Q 以降の資料は、いずれも当館蔵)

手前は横須賀線の線路で 70 系車両が写る。奥の海側には現在のヴェルニー公園に沿うように米海軍基地の構内に向けて鉄道線が走っていた。この専用線は元横須賀海軍工廠の専用引込線路。

##### 資料 Q



##### 資料 R 貨物の横須賀駅 昭和 47 年 (1972)

写真の左側は貨物の横須賀駅。昭和 41 年 (1966) から、鉄道による新車の自動車輸送が盛んに行われ、同 40 年代末には横須賀駅の取り扱い貨物のほとんどを占めた。その後、広大な貨物施設は無くなり、現在跡地には、ウェルシティ市民プラザやマンションなどが建っている。

##### 資料 R



## 5. 写真にみる昭和 30 年代の京急線駅前

### 資料 S 横須賀中央駅前 昭和 30 年 (1955)

湘南電鉄は、戦時中の交通事業の合併や統合の影響も受け、社名を変えつつも、昭和 23 年には、現在の京浜急行電鉄となった。湘南電鉄開通時から開業していた横須賀中央駅の駅舎や改札口は、当初から 1 階にあった。昭和 28 年 (1953) には、同年に放送が開始されたばかりのテレビがホームに設置された。駅ビルとなったのは昭和 34 年 (1959) で、その後、現在の姿となったのは平成 9 年 (1997) のことである。

### 資料 S



### 資料 T 浦賀駅前 昭和 37 年 (1962)

浦賀駅は、昭和 5 年、湘南電鉄の終点駅として開業。写真の正面には浦賀ドックのクレーンが見える。ドックで働く人々は通勤で浦賀駅を利用することも少なくなかった。また写真の右側には架線柱がみえるが、これは浦賀駅から続いていた引き上げ線。浦賀小学校東側に続いていたが、現在は無くなり、駐車場等になっている。

### 資料 T



### 資料 U 湘南久里浜駅 昭和 38 年 (1963) 以前

当初は久里浜駅として開業したが、昭和 19 年、軍の要請で開通した横須賀線の久里浜駅が開業したため、湘南久里浜駅に改称された。昭和 38 年 11 月、湘南久里浜駅から京浜久里浜駅に改称され、昭和 62 年 (1987) には駅ビル「ウィング久里浜」ができ、現在の京急久里浜駅となった。

### 資料 U



### 資料 V 追浜駅 昭和 30 年

追浜駅の開業は昭和 5 年。同 7 年 (1932) に海軍航空廠が設置されると乗降客が急増した。駅舎の後ろにある病院は湘南病院。昭和 48 年 (1973)、駅舎が改築され、現在と同じ橋上駅となった。

### 資料 V



★関連動画は市公式 YouTube チャンネルで

<https://www.youtube.com/channel/UCQDVaWThh91v2lgtCCqio5w>



## 6. おわりに ～YouTube 動画公開の経緯～

本稿では、企画展示「鉄道と横須賀」に出陳した主な展示資料について、紹介を行った。紙面の都合上、全ての展示資料の説明を行うことは出来なかったが、他の関連資料もご覧になりたい方は、7頁下に掲載の横須賀市公式 YouTube チャンネルにて2本の関連動画（「鉄道と駅の風景」横須賀線編及び京急線編）を公開しているので、ぜひそちらも併せてご覧いただきたい。

最後に、今回郷土資料室では初めての試みとなった企画展示に関する YouTube 動画公開の経緯について記しておきたい。YouTube 動画の公開は、当初から予定していたものではなかった。企画展示では、展示パネルや展示ケースとともにテレビモニターを設置し、資料紹介のライドショーを流していたが、これをご覧になった来館者の方々から、YouTube で公開して欲しいとの声を頂いた。大変ありがたいご意見ではあったが、もともと YouTube での公開を前提にライドショーを制作した訳ではなかったため、実際これをそのまま公開する訳にはいかなかった。公開するためには、追加の編集作業が必要になること、またそもそも郷土資料室の業務として YouTube 動画の制作を始めてよいものか、検討を重ねた。

そして、検討のなかで、2つの観点から、すぐに取り組むべきではないかとの結論に至った。1つは、動画公開を行うことで、ライドショーによる展示上の問題点を解決できるのではないかという点である。ライドショーでの資料紹介は、展示スペースが限られた中央図書館においては、より多くの資料を紹介しようとした際、非常に有効な展示手段となる。実際の会場でも、多くの来館者が足を止め、展示をご覧いただいていた。しかし、展示ケースや展示パネルなどと違い、ライドショーは来館者が興味や関心をもつ資料があったとしても、機械的に一定の時間で画面が切り替わってしまうため、十分にその資料を閲覧することができない弱点があった。ライドショーは、資料をじっくり見たいと思う利用者には必ずしも満足度の高い展示手法とはいえない面があり、実際、来館者からもそうした声はいただいていた。しかし、そうしたデメリットも、

YouTube で動画公開をすることで、後日ゆっくりと資料をご覧いただく機会を提供することができ、各個人に動画の再生や一時停止等の選択を委ねることができる。こうした動画公開は、実際の展示のなかで見えた課題の解決策の1つになるのではないかと思われた。

もう1つは、YouTube による発信が、郷土資料室の所蔵資料の公開に際し、有益なアウトリーチの手段になるのではないかという点である。この発信により、中央図書館から遠方にお住まいの方、あるいは、普段同館への来館が難しい方々も、より手軽に所蔵資料をご覧いただけるようになる。勿論、直接展示会場にご来場いただかなければ、ご覧いただけない原資料は様々あるが、その原資料に関する様々な情報や解説、あるいは原資料を撮影した複製資料について、発信することは可能だろう。今回の展示では、横須賀市内の鉄道や駅をテーマとしたが、鉄道は広域に走る乗り物であることから、市外に居住の方でもこの展示に関心をもってくださる方は少なくなかった。幅広く情報発信を行うことは、より多くの方々に地域の歴史や郷土資料について、知っていただく第一歩となるに違いない。

このような観点から、展示期間終了後、ライドショーは、横須賀線編と京急線編の2作品に切り分け、新たな内容と音楽の追加などの再編集を行い、YouTube 動画としてリリースするに至った。今後も、YouTube 動画の公開が可能な機会には、再びこれに取り組んでいくとともに、デジタルアーカイブや SNS を通じた資料紹介、他施設と連携した出張展示等、他のアウトリーチの手法と合わせ、所蔵資料に関する様々な情報発信の実践にあたっていきたいと思う。

### 〈参考文献〉

- ・『80年の歩み』（京浜急行電鉄、1978年）
- ・『目で見る・よこすか100年』（横須賀市、1982年）
- ・久保木実『絵葉書が語る三浦半島の百年』（1984年）
- ・飯島巖他『私鉄の車両18 京浜急行電鉄』（保育社、1986年）
- ・『京浜急行100年の歩み』（京浜急行電鉄、1998年）
- ・吉川文夫『タイムスリップ 横須賀線』（大正出版、2004年）
- ・『新横須賀市史 資料編 近現代I』（横須賀市、2006年）
- ・蟹江康光『横須賀線を訪ねる』（交通新聞社、2010年）
- ・広岡友紀『日本の私鉄 京浜急行電鉄』（毎日新聞社、2010年）
- ・西潟正人『京急電鉄 街と駅の1世紀』（彩流社、2013年）
- ・『新横須賀市史 通史編 近現代』（横須賀市、2014年）
- ・『新横須賀市史 別編 年表』（横須賀市、2015年）
- ・『写真が語る横須賀・三浦の100年』（いき出版、2021年）



## 郷土資料室事業概要 (令和5年度)

### 1 郷土資料に関するレファレンス

- 問い合わせ・相談件数 125件
- 郷土資料利用許可件数 56件

### 2 関連団体の研修会等参加実績

- (1) 12月22日、神奈川県歴史資料取扱機関連絡協議会 令和5年度研修会「古文書・私文書整理きほんの『き』」〔谷合・宮城・堀井〕
- (2) 2月8日、神奈川県図書館協会地域資料委員会 研修会「地域資料の現在とこれから～利活用を中心に～」〔堀井〕
- (3) 2月19日 日本図書館協会資料保存委員会 資料保存セミナー「明日からできる『資料保存の基礎技術』」〔堀井〕
- (4) 3月10・11日、神奈川大学常民文化研究講座「古文書修復実習」〔谷合〕

### 3 依頼業務等

- 4月12・19日 池上コミュニティセンター 講座「三浦一族の歴史」 講師〔谷合〕
- 12月7・14日 追浜コミュニティセンター もっと知りたい歴史講座「三浦義村はどんな人？」 講師〔谷合〕
- まなびかんニュース 2023年5月号～11月号・2024年2～4月号、連載コラム「Café des 三浦一族」第12～17回・20～22回〔谷合〕

### 4 所蔵資料等の公開・活用・アーカイブ等

- (1) 郷土資料の展示 (日付は開催会期)
  - A) 郷土資料室企画展示『関東大震災と横須賀』展  
中央図書館 1階ロビー：8月25日～9月27日  
《巡回展》北図書館：9月29日～10月11日  
南図書館：10月13日～10月25日



『関東大震災と横須賀』展の様子

- B) 生涯学習財団『関東大震災と横須賀 パネル展』(資料提供) ウェルシティ市民プラザ5階まなびかんロビー：8月25日～9月27日
- C) 郷土資料室企画展示『鉄道と横須賀』展  
中央図書館 1階ロビー：2月10日～3月14日



『鉄道と横須賀』展の様子

- (2) 資料複製 (デジタル化) 件数 8件 26点
- (3) デジタルアーカイブ (図書館ホームページでの資料公開、☆=令和5年度の追加分を含む)
  - A) 絵葉書：市内各所 143件〔152点〕☆
  - B) 絵葉書：横須賀海軍工廠建造の軍艦 15件〔78点〕
  - C) 貴重図書 3件〔4点〕
  - D) 写真：ガントリークレーン、EMクラブ他 6件〔176点〕
  - E) 写真：旧軍関係 2件〔54点〕
  - F) 古文書・古記録 3件〔10点〕
  - G) 地図・絵図等 17件〔20点〕☆
  - H) 郷土資料室『緒明山通信』 13件 ☆

#### (4) 情報配信

- A) X (旧ツイッター) 情報配信 12回  
最多表示回数 1.9万 (『鉄道と横須賀』展告知)
- B) 横須賀市公式 YouTube 3本  
最多視聴回数 2,308 (『駅と鉄道の風景 横須賀線編』)  
※ 回数は共に 2024.3.31 現在

#### (5) 郷土資料室情報誌 (Web上での無料頒布)

- A) 緒明山通信 第11号 令和5年5月11日発行
- B) 緒明山通信 第12号 令和5年8月25日発行
- C) 緒明山通信 第13号 令和6年3月27日発行

### 5 寄贈資料

(寄贈順、敬称略)

- (1) 海軍大佐田中謙治関係資料 (軍人伝道義会エッセテラ・フィンチ関係資料を含む) 計400点  
市川市・匿名
- (2) 湘南電鉄株式会社業務用はんでん襟文字 計3点  
世田谷区・佐藤 功

- (3) 横須賀海兵団関連写真 計 34 点 米国・キセキ  
遺留品返還プロジェクト 代表 ジャガード千津子
- (4) ガントリークレーン写真 1 点 市内・今 雅史
- (5) 横須賀海兵団及び陸軍関係写真 計 9 点  
市内・田邊裕一
- (6) 戦没船員追悼式関係写真 計 2 点  
横浜市・福田裕美
- (7) 野比二丁目所在近世文書等 一式 市内・匿名
- (8) 絵葉書「湘南アルプス 鷹取山」 1セット 8 枚  
横浜市・矢嶋春美
- (9) 市内鉄道写真 (デジタルデータ) 計 276 点  
市内・北村栄一
- (10) 庁内各部局等移管・寄贈資料
  - A) 横須賀商工名鑑ほか経済関係図書 6 点  
〔企業誘致・工業振興課〕
  - B) 記念艦三笠復元式典映像 (DVD) 〔秘書課〕



湘南電鉄のはんてん襟文字 (『鉄道と横須賀』展)



陸軍兵士集合写真 (重砲兵連隊、撮影年代不明)



絵葉書「鷹取山」(今は亡き釈迦如来像、昭和 35 年)

- 6 図書寄贈者・団体等一覧 (五十音順、敬称略)
- 厚木市教育委員会、安祥文化のさと地域運営共同体、安城市教育委員会、市立市川歴史博物館、榎戸町内会、海老名市教育委員会文化財係、大磯町郷土資料館、大滝町内会、小田原市立中央図書館、神奈川県立公文書館、神奈川県立図書館、神奈川大学日本常民文化研究所、鎌倉市中央図書館、川越市立博物館、木古内町教育委員会、寒川文書館、16 ミリ試写室、世田谷区区史編さん担当、世田谷区立郷土資料館、千葉商科大学、時里奉明、豊田市市史編さん室、長野市公文書館、常陸大宮市市史編さん事務局、福岡市博物館市史編さん室、藤山幸一、府中市市史編さん担当、株式会社プランニングアドゥ、町田市立自由民権資料館、三浦半島の文化を考える会、森直弥、安浦連合町内会、NPO 法人よこすかシティガイド協会、横須賀文化協会、横浜開港資料館、横浜市史資料室

7 事務執行体制の変更

	(令和 5 年度)	(令和 6 年度)
教育長	新倉 聡	新倉 聡
教育総務部長	古谷久乃	古谷久乃
中央図書館長	山田智子	柿原美奈
図書サービス係長	深水賢一	深水賢一
《郷土資料室》		
主査		谷合伸介
主任	谷合伸介	
会計年度任用職員	佐藤明生	佐藤明生
会計年度任用職員	宮城 睦	宮城 睦
会計年度任用職員	堀井由貴子	堀井由貴子
会計年度任用職員	橋本和磨	橋本和磨
	(2月1日～)	

あとがき

緒明山通信第 14 号をお届けします。今号では、令和 5 年度に開催した展示会についての「企画展示『鉄道と横須賀』を振り返る」と令和 5 年度の事務概要を掲載しました。

なお、本誌は印刷発行せず、ホームページからダウンロードしていただくことにより無償で頒布しています。

図書館 HP「デジタルアーカイブ」のご案内

横須賀市立図書館ホームページでは「デジタルアーカイブ」のページを開設しています。戦前の絵葉書や写真等の郷土資料の他、『緒明山通信』(旧市史資料室通信)のバックナンバーもご覧いただけます。

下に記した URL か右側の QR コードからアクセスしてください。

<https://www.yokosuka-lib.jp/contents/archive/>

